

# 夏期の高温・少雨に係る技術対策

## 水稻

### 【栽培管理等対策】

用水が不足しやすい地域では、下記の対策とともに、用水の確保及び漏水防止対策を併せて行う。

出穂前後3週間の湛水管理を行う。

水利条件が良い圃場では、夜間、水の掛け流しを行い、登熟の低下を防ぐ。

早期落水はしない。

用水の確保・漏水防止対策

用水の不足が懸念される場合は出穂～穂揃期を中心に、重点的なかん水を行う。

### 【病虫害対策】

トビイロウンカ

発生量は「平年並」の予想。防除適期は8月25日～9月1日。

斑点米カメムシ類

8月中旬以降に出穂する圃場は穂揃期に防除（粉剤・液剤）。尚、大型のカメムシ類が認められる場合は、穂揃期後7～10日に追加防除を行う。

## 野菜

夏野菜のナス、トマト、キュウリ等は、生育適温を超えているため、草勢の低下による着果不良、着色不良等の品質低下、高温乾燥による生理障害などの発生に注意する。

秋野菜のキャベツ、ハクサイ等は、育苗時の発芽不良や定植時の活着不良等に注意する。

病虫害においては、高温・少雨は、チョウ目害虫、アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類等多発生を助長するため、害虫防除を徹底する。

### 【栽培管理等対策】

（共通）

果菜類は、開花期～果実肥大期に重点かん水を行う。

葉・根菜類は、播種期、移植期及び葉数増加期に重点かん水を行う。

敷きワラ等のマルチ被覆を厚めにし、地温の上昇と乾燥を防ぐ。  
遮光資材による被覆と換気を行う。

## トマト

### 【栽培管理等対策】

ホルモン処理は、日中の高温時を避け、気温の低い時間帯に行う。  
石灰欠乏症の発生に注意し、過乾燥を防ぐとともに石灰資材の葉面散布を行う。

雨よけ施設の開口部は全開し、高い位置に換気口を設けて換気を行う。

収穫は気温の低い早朝に行う。

出荷時の過熟果や障害果の混入を防ぐ。

### 【病害虫防除】

タバコガ、ヨトウムシ、コナジラミ類の防除徹底。

## ナス・ピーマン

### 【栽培管理等対策】

くず果の早期適果やL，M中心の若もぎを行う。

徒長枝や込み合った株元の側枝をせん定する。

切り戻しせん定と古葉の除去を行う。

### 【病害虫防除】

アザミウマ類、チャノホコリダニ、タバコガ、ヨトウムシ類の防除徹底。

## ポウレンソウ

### 【栽培管理等対策】

遮光資材で被覆する。

高温による発芽むらを防ぐ。耕うん前に十分なかん水を行う。播種後のかん水を行う。

### 【病害虫対策】

アブラムシ類、ハダニ類の防除徹底。

苗立枯病、萎凋病の防除徹底。

## 秋冬野菜

### 【栽培管理等対策】

育苗管理において、発芽障害防止のため冷暗所で発芽させ、発芽後直ちに苗床に移動する。

苗床を遮光する。

定植作業の遅れに備え、適量かん水で苗の軟弱徒長を防ぐ。

予備苗を確保する。

圃場準備及び定植において、深耕及び堆肥施用により保水力を向上させる。

定植時の用水を確保する。

植え穴かん水や局所かん水を活用する。少量の場合は夕方に行う。

定植作業は夕方に行う。

### 【病虫害防除】

チョウ目害虫(コナガ、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ等)、アブラムシ類の防除徹底。



薬剤散布は日中の高温  
時を避けて早朝または  
夕方に行いましょう。